



有明高専だより

第123号
2007.11



目次

特集 国際交流2007	2・3	第42回 全国高専体育大会成績	11
シリーズ 研究室訪問	4	英語弁論大会・ホンダエコラン・ソーラーボート	12
シリーズ 企業訪問—卒業生を訪ねて	5	キャンバスクリーン作業・体育系部活動リーダー研修	13
オープンカレッジ2007	6・7	インターンシップ報告(本科)	14
第25回 体育祭	8・9	インターンシップ報告(専攻科)	15
第44回 九州沖縄地区高専体育大会成績	10	トピックス・編集後記	16

※本文中において、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科 但し、2年生は学年一組)

有明高専における国際性 シンガポールのポリテクとの交流を通して

昨年8月に九州・沖縄地区高専とシンガポールの3ポリテクとの間で包括的交流協定が締結され、今年9月にはシンガポールで国際工学教育研究集会が行われました。今回の研究集会に参加された先生方にお集まりいただき国際性についてのお話をうかがいました。

出席者 川瀬良一先生（C科）
松野哲也先生（I科）
小野聰子先生（A科）
岩下 勉先生（A科）
グランバイン先生（G科）
司 会 氷室昭三先生（教務主事）



氷室：有明高専が国際性を訴えはじめてちょうど10年になります。ようやく中国やシンガポールとの交流ができますはじめて、これから軌道にのると思っております。今後、国際化を進めていく上で、高専における国際性とはどのようなものか、整理しておく必要があろうかと思います。そこで、このことについて、まず、川瀬先生の御意見をうかがいたいと思います。

川瀬：高専における国際性の目的は2つあると思います。1つは実用的な面のことです。卒業生が就職する企業の多くが国際的に展開しているので、その企業において国際的に仕事をする上で、それに対応できる能力を身に付ける、ところまではいかないけれども、少なくともそのようなチャンスがあったときには挑戦する気持ちを持つことができる学生を育てることだと思います。もう1つは、人間性を育てることですね。言語の違いや文化の違いを超えて相手を認め合う、違いを肌で感じて、幅広い柔軟な考えがもてる人間を育てることです。

氷室：高専における国際性はそういうことだと私も思います。それでは、次にシンガポールのポリテクとの交流について、今後どのような展開が期待できるでしょうか。

グランバイン：ポリテクのスケールはとても大きいけれども、学んでいる学生は本校の学生と同じ年齢だから、学生の交流は可能で、これから学生の交流を進めていくことが重要だと思います。その際に、英語で話すことになるけれども、日本人を含めSecond Languageだから交流はしやすいと思います。シンガポールの多くの学生は日本に興味をもち、日本語を勉強したいと思っているので、来校をすすめたいですね。そうすることで本校の学生もシンガポールに興味をもつようになるので、相互訪問ができる、お互いに交換し合える環境をつくっていくことが大事でしょう。

氷室：ポリテクの感想はいかがですか。

岩下：熊本電波高専の教員と学生がちょうど来ていましたが、ポリテクの学生と彼らとの間でテレビ会議を

やっていました。このような機会を使ってシンガポールの学生と会話することでも学生にとって良い刺激になると思いました。現地で見たシンガポールの学生はとても一生懸命だったし、先生もそうでした。このようなところに共感がもてました。

氷室：ポリテクでの学生の交流の可能性については。

小野：スクールオブデザインを見学しましたが、シンガポールで行われる建築のプロジェクトに学生が参加することは可能で、そうすることがいいのかなと思いました。シンガポールには日本人が設計した建築がたくさん建っているので、デザインを含めたプロジェクトに参加できると思います。

川瀬：ポリテクとの合意で、3月に学生の交流ができるないものかと考えています。シンガポールで安く泊まれる所を確保してもらえそうだし、ホームステイ先も探してくれそうなので、本校の学生の希望者を募り、希望者の数に応じたプログラムを考えていきたいと思っています。3月だからポリテクも春休みなので、授業に参加することはできませんが、向こうの学生とコミュニケーションをとることが大事で、そこから国際交流は始まると思います。本校に国際交流委員会という組織を来年度につくろうとしていますが、今、できることから始めていきたいと思っているので、3月の交流を考えています。

氷室：松野先生はPBLについて盛んに研究されているようですが、シンガポールにおけるPBLについて教えていただけないでしょうか。

松野：PBL（Problem Based Learning）はシンガポールのポリテクが工学教育用として熱心に取り組んでおり、日本に比べると何年も進んでいます。PBLという教育法にはいくつかバージョンがあり、私の研究はテーマセク・ポリテクバージョンのPBLです。今回の国際工学教育研究集会に先立って、シンガポール・ポリテク、リバブリック・ポリテク、テーマセク・ポリテクの3校を訪問しましたが、3校ともPBLを重くみて積極的に取り入れています。研究集会ではテーマセク・

ポリテクの現場の声が聞けたことが収穫でした。実際に人と会って議論することが大事だと改めて感じました。

氷室：最初でも言いましたように、本校では10年前から国際性を訴えておりましたが、なかなか進んでいません。国際化を進めるためには問題点をどうやって解決していったらよいと思われますか。

グランバイン：LanguageとCulture、それに今の学生の姿勢や考え方には問題があると思います。彼らは1つの文化以外の文化には関心がなく、他を理解しようとしない、そして、日本のことを知らないし、外国に興味がないように感じられ、心配です。

小野：学生は視野が広くないので、広げさせる手助けを教員がしてもよいと思います。例えば、グランバイン先生が本校に着任されて外国人に興味をもった学生は多いと思います。だから、先生でなくてもよいので、外国人の人と接する機会を、できれば堅苦しい機会でない機会をつくって、外国人の人と接するようにすれば、刺激となって外国人に対する興味が増していくと思います。

松野：今回のシンガポールの国際工学教育研究集会では、自分の発表に対して議論できたことは良かったのですが、それ以上に、実際にPBLをやっている人の声が聞けたことが良かったと思います。学生にとっては英語でのコミュニケーションは難しいだろうし、それが壁になっていると思いますが、とにかく外国人の人と会って話すことをすすめたいです。

川瀬：2000年の4Cの研修旅行でシンガポールに行きました。その研修旅行では3つのポイントをつくって臨みました。1つはポリテクの学生との交流、2つめは日系企業の見学、3つめはシンガポールで働いている卒業生の話を聞くことでした。ポリテクとの学生の交流はうまくいき、お互い大いに興味をもつことができたようです。日系企業では日本人の学生が来るということで大歓迎してくれました。将来、外国の日系企業へのインターンシップも可能だと確信しました。卒業生の話は熱心に聞いており、海外経験のある人、国際化した人の話をうまく本校の授業の中に取り入れることができたら学生にとって良い刺激になると思いました。

グランバイン：アジアだけでなく、アメリカにも目をむけて取り組んでいくべきです。また、学生には時間がないので出かけることが難しい現状があります。そ

こで、海外で修得した単位を認定するような制度をつければ、学生における国際交流が進むでしょう。

川瀬：外国の大学等との単位の相互認定ができるようなシステムを考えてほしいです。シンガポールのポリテクには本校と同じような学科があるので、専門科目の単位認定は容易と思われます。

氷室：国際交流や国際的なご経験から、先生方から学生に伝えておきたいことはございませんか。

川瀬：2000年の海外での研修旅行を行った学生は100%楽しかったと言っていました。国内に比べると多少旅費は高くなるでしょうが、無理やり連れていくのもいいのかな、という気持ちもあります。私はこれまで25カ国を訪問し、シンガポールは今回9回目になりますが、その経験から、言葉の問題は乗り越えられます。それよりももっと好奇心をくすぐることがいっぱいあるので、若いときに外国人の人と接してほしいと思います。

岩下：海外に行くことが必要であるのであれば、ある程度の強制力があつてもよいと思います。自分自身も強制的な状況におかれましたので、「英語を勉強しなきゃ」という状況になりました。学生の間に1回は海外に行ってみてください。刺激を受けるし、視野が広まるし、必ずプラスになります。

松野：まず、いろいろな人と意見交換し合うと、思った以上に楽しいことがあります。それが外国人の人だとより一層楽しくなるでしょう。その場合、自分がいろいろな人たちに伝えたいことを持つておくことが大事で、何もない空っぽの状態では人と話しても楽しくない、しっかりしたもの自分でもついてそれを人に伝えたいと思えば、英語が苦手でも身振り手振りで理解してもらえると思います。

小野：外国人の人と話をすると、日本の文化についてよく聞かれるので教養が必要となります。例えば、お茶、お花、書道などあるいは日本でしかやらないもの、例えば折り紙など、ちょっとでも知っておけば話がうまく進むことは間違ひありません。

氷室：今日、話を聞きして、このようなミーティングが大事だと痛感しました。個人個人ではいろいろと活躍されているでしょうが、このように話し合うことで共有しうるものができます。国際化が進んでいくと思った次第です。本校が今後発展していく上で、いろいろご協力を願いしたいと思います。本日はありがとうございました。



写真左から氷室・松野・岩下・グランバイン・小野・川瀬の各先生

シリーズ

研究室訪問

今回は、機械工学科の柳原聖先生と物質工学科の劉丹先生の研究室を訪ね、お話を聞きました。

(聞き手: M科 岩本達也)

柳原 聖 研究室 (機械工学科)

現在の研究テーマについてお聞かせ下さい。

計測関係では、高齢者の健康をはかる研究に取り組んでいます。具体的には、筋力測定を従来のバネを利用した構造のものではなく、ある慣性モーメントを加速させることで筋力を動的に求められないかと考えています。

振動関係では、機械加工部品の品質を向上させる研究に取り組んでいます。非常に精度の良い工作物を得るためにには、加工中の振動をいかに減らすかが重要になってきます。そのために、まず振動を計測し、発生するメカニズムを解明して、振動が抑えられるような制御を行います。たとえば、振動源と逆の位相を持つ振動を能動的に系に生じさせて振動を抑制したいと思っています。

この研究をはじめられたきっかけをお聞かせください。

もともとは自動車やオートバイが好きで、それらの電子制御を理解できるようになりたいと思っていました。燃料噴射装置やサスペンションの制御にはマイコンが使われており、その制御やプログラミングが分かるようになりました。そこで、学生時代に卒研でマイコン制御を教えて下さる先生のもとに行きました。その研究室で与えられた最初のテーマが機械加工中の工作物振動を抑制するというものでした。

今後の研究の方向をお聞かせください。

着任してから、まだ一年しか経っておりませんので、ようやくテーマを決めた段階程度です。ですので、今後は、身近な地域のニーズの中からテーマが見つけられればと思います。

最後に学生にアドバイスをお願いします。

もっとディスカッションを研究室の仲間同士で活発に行って欲しい！皆さんを見ていると、研究について仲間同士で議論しあう時間が少ないように思います。「キミの研究の〇〇とはどんなことだ？」や「そういう実験のやり方で妥当なの？」など、初步的な内容でもいいので、お互いの研究のことを聞きあつたりして、考えを深めてもらえたなら良いなと思います。



研究室の学生と

劉丹 研究室 (物質工学科)

現在の研究テーマについてお聞かせ下さい。

現在は、環境に関する研究に取り組んでいます。まず一つ目は、大気汚染に関するテーマです。化石燃料の埋蔵量には限りがあり、天然ガス・石油は20～30年分しかないと言われています。しかし、石炭は約700年分残っています。人類が新たなエネルギーを発見しない限り、石油に代わるエネルギーとして石炭の利用が重要となるでしょう。ただし、石炭には硫黄やフッ素が含まれており、燃焼ガスとして大気中に放出するとさまざまな環境問題を引き起こす要因となります。これらを脱硫化あるいは脱フッ素化して、クリーンな排気に変える方法を研究しています。

二つ目は、アルカリ土壤の改善です。石膏を土壤改良材として用いることで、植物の育つ土地へと生まれ変わります。その石膏に、石炭燃焼ガスを脱硫化するときに生成された石膏を利用することが可能で、まさに一石二鳥の研究です。

三つ目は、O-溶液の利用です。これは、まだ始めたばかりの研究なのですが、O-溶液には強力な酸化作用があり、医療器具や食品等の安全な殺菌方法となる可能性があります。

四つ目は、海の砂漠化の対策です。海の砂漠化とは、昆布などの海藻が消失し、まるで海の中にできた砂漠のように植物が見られなくなった状態をいいます。近年、日本の近海にも急激に拡大している深刻な問題です。最近、長崎県大村湾にて実験を始めました。環境をテーマとする研究は、現場の調査とサンプルの採取が非常に重要であります。だから、私は現場へ飛ぶことが多いです。

なお、以上のテーマはすべて高専卒研テーマとして学生と取り込んでいます。

先生は、非常にエネルギーに仕事をされていますが、なにか秘訣はありますか。

私は、学生と接するのが大好きです。若くてエネルギーな学生と接することで、元気をもらっています。

最後に学生にアドバイスをお願いします。

考える力を持つてほしいですね。普段の授業やレポートや卒業研究などで、すぐに答えを求めるせず、なぜこのような計算をするのか、なぜこのような結果になったのか、ちゃんと自分の力で考えてください。考える力が君たちを成長させるのです。

特に環境をテーマとして研究している学生は、自分の目で現場の状況を確認して、美しい自然を守るために、一生懸命研究をしてほしいものです。



研究室にて

シリーズ 企業訪問－卒業生を訪ねて

株式会社高巣設計事務所

(福岡県大牟田市築町3-6アラキフルーツビル2階)

今回は、大牟田市にある建築設計事務所「高巣設計事務所（非常勤講師の高巣光男先生が所長）」にお勤めの本校卒業生にお話を伺いました。お話をしてくれたのは、加藤ひとみさん（A科36期）と宮田麻美さん（A科38期）です。

（取材：A科 加藤浩司）

加藤：これまでどのような仕事に携わってこられたのか、教えてください。

加藤ひ＆宮田：建物の設計をすることが、私たちの仕事です。しかし、一言で“建物”と言っても、種類・規模ともに様々です。例えば、小さいものでは個人の住宅、大きいものでは公営団地などがあります。最近は、社会の動きに並行して福祉施設の設計も多いです。若いうちから様々な建物の設計に携わらせてもらっているので、私たちにとって良い経験になっています。

宮田：弊社は、分業制で仕事をする大きな事務所とは違い、みんなで協力して一連の設計プロセスに取り組んでいます。一部分でなく一通りの設計プロセスに携わることは勉強になりますし、私はそうした環境の中で、所長や先輩に教えて頂きながら仕事を覚えていっています。

加藤：進路はどのようにして決めたのですか。

加藤ひ：高専に入る前からものをつくること、特にデザインすることが好きでした。それで高専に入学し、色々と建築について学ぶことになったのですが、その中でもやはりデザインが一番面白いと思い、建築設計事務所に進むことにしました。昔から好きだったことが仕事になったという感じです。ただ、デザインするもののスケールが、雑貨やアクセサリーなど小さいものから、建物というかなり大きなものになりましたが。どうして建築かと言えば、当時それだけ建築に可能性を感じたのです。雑貨や家具のデザインにも関心はあったのですが、それらを包み込む、大きなスケールで考える建築なら何でもできるような気がして。

宮田：私もデザインは好きでしたが、進路の決め方は加藤さんと違い、高専で建築を学ぶ中で自分に合った仕事を探したという感じです。

加藤：高専で学んだことのうち、実務で特に役立っていることは何ですか。

加藤ひ：実務に就いた今、学生時代に習ったことについて色々気づくことがあります。例えば、「あの時、先生はこういうことを言いたかったんだろうなあ」とか。昔は覚えることで精一杯。よく意味もわからないままにとにかく覚えるということもありましたが、その甲斐あってか実務で「聞いたことがない」「知らない」という場面に出会うことが少ないうふうに思います。そういうえば、この前受けた資格試験の問題に、建物見学で見た集合住宅のことが出題されました。「高専に



左から加藤、宮田、李（昨年度まで非常勤講師）の各氏

ありがとう」という感じ。ちょうどお礼が言いたかったんです。

加藤ひ＆宮田：何よりも高専で得られた仲間が元気の素。良い仲間がたくさんできました。“縦横の強いつながり”は、高専だったからつくれたのではと感じています。もちろん、今でも交流は続いているし、おばあちゃんになっても続くだろうなと思っています。学校行事に熱く取り組んだことも思い出深いです。この先、子どもができたら高専を薦めたい！本当にそう思いますね。

加藤：最後に、学生時代にやっておくべきことなど、後輩へのメッセージをお願いします。

加藤ひ：若いって、学生って本当に“お得”だと思うんです。社会に出るとわからないことがたくさん。でも、社会人になると何でも教えてくださいとは、やはり言いづらい。学生であれば、わかりませんや教えてくださいが、素直に言える。それに甘んじてばかりじゃいけないけれど、もちろん自分で調べることも大事だけれど、気負いせず今はどんどん質問していくんじゃないかなと。それで色々なことを吸収していく方がいいんじゃないかなと思います。ただ、教えてもらうだけじゃなく、教えてもらったことをしっかりメモすることも大事かな。

宮田：私は計画性のない学生だったので、いつも提出期限が迫っている時やテスト期間中は早く卒業したい、もうこんな徹夜続きの生活はイヤだ！と思っていました。でも、今となってはそんな日々が懐かしくて。きっと私みたいな人も少なくないと思います。学生時代は、本当に貴重な時間です。（楽しい時間はもちろん、たとえどんな辛い時でも）友達を大切にし、熱い思い出をたくさんつくって下さい。一緒に頑張ってきた仲間、それが社会に出てからの一番の励みになると思います。

加藤：そうですね。学生には、学生時代という時間を大切に、充実した学生生活を送って欲しいですね。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

オープンカレッジ2007

8月24日(金)、25日(土)の2日間に亘り、昨年より多い1000名を越える来場者を迎えた「オープンカレッジ2007」を開催しました。オープンカレッジは、地域連携の一環として地域の方々に本校の魅力を理解して頂くことを目的として、今年で3回目の開催となります。

各学科において実施された「体験教室」では、子供たちが目を輝かしながら、チャレンジしている姿や指導役の本校の学生と親しげに話している姿が印象的でした。さらに、1つの体験教室を終え、次の体験教室へと急ぐ後姿はヤル気満々で頼もしく思えました。数年後はぜひ本校の学生として、その姿を見せてもらえば・・・。

また、今年で13回目を迎えた「ロボットJリーグ」。今年も大牟田・荒尾地区近郊から30チームの参加があり、100名を越す子供たちが5日間をかけロボット製作を行い、オープンカレッジ2日目の大会に臨みました。各チームとも力作のロボットが披露され、熱戦が繰り広げられました。猛暑の中、ロボット製作に取り組んだ熱意と大会での一喜一憂など貴重な夏休みの思い出となったのではないでしょうか。

短い時間でしたが、地域の皆さんと有明高専の触れ合いができた楽しい2日間でした。

**有明工業高等専門学校
オープンカレッジ2007**
～高専ものづくりフェア、子供も大人も高専でアソボ～

※当日、本校内は全面禁煙です。ご了承ください。期間中に撮影させていただいた写真は、来年度オープンカレッジで使用させていただくことがあります。

～開催日時・場所～
2007年8月24日(金)～25日(土)
※[ロボットJリーグ・化学への招待も同時開催！]

有明工業高等専門学校学内

〒836-8585 大牟田市東森尾町150
お問い合わせ/有明工業高等専門学校 地域共同テクノセンター
TEL 0944-53-8627 URL: <http://www.ariake-nct.ac.jp/>



今年は「高専ものづくりフェア、子供も大人も高専でアソボ！」をテーマに、各学科企画における体験教室や学科紹介、小中学生によるロボットJリーグ、さらに昨年より充実した学校紹介で構成されました。

物質工学科

- ・身近なものを使った化学
- ・化学で大きなもの、きれいなものをつくろう！



電気工学科

- ・クリップモーターで回転競争だ！





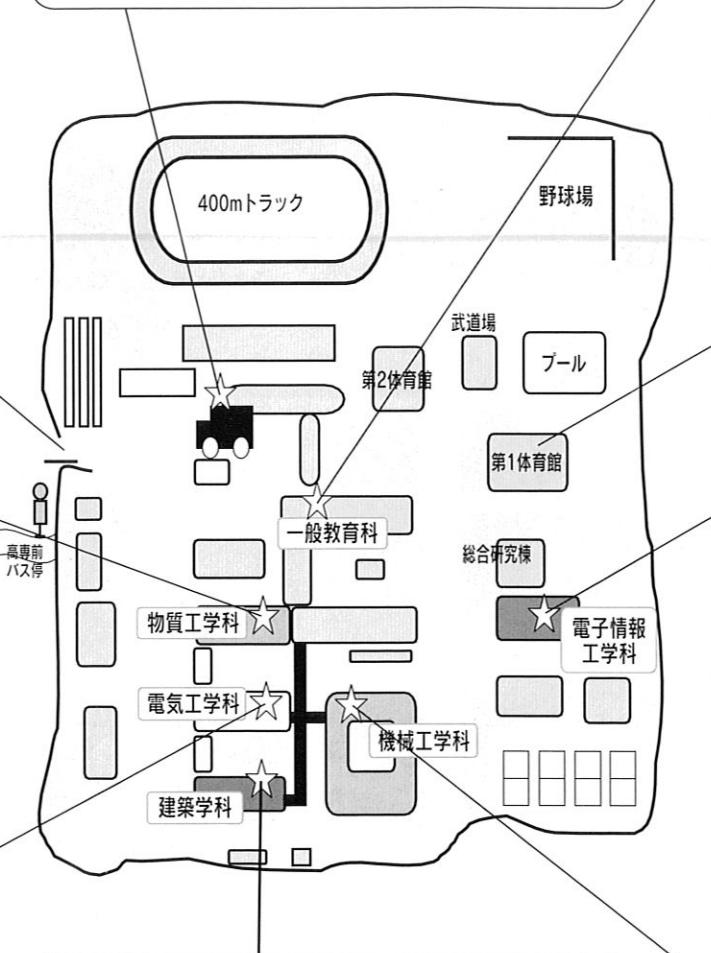
燃料電池自動車操縦体験コーナー

正門前ロータリーにおいて、環境省および大牟田市役所のご好意により、燃料電池自動車啓発推進事業の一環として燃料電池自動車の展示・試乗を実施しました。



一般教育科

- 楽しい理科実験～液体窒素とスライムで遊ぼう!～



建築学科

- 楽しい折り紙建築



ロボットリーグ



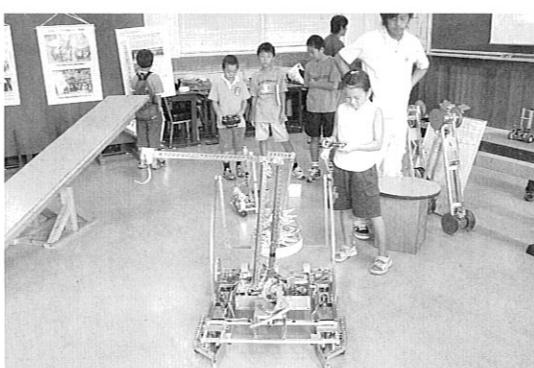
電子情報工学科

- 電子ほたるをつくろう
- シミュレーションをアート感覚で体験



機械工学科

- 2006年度NHKロボコン全国大会出場マシンとロボットGP出場マシンの操縦体験



ANRAKE KANZEI TRIUMPH GAMES!! YES! 10月14日(日)晴

魅セル覚悟ハ、出来テイル。

有明工業高等専門学校 体育祭
日時：10月14日(日) 4時15分～
場所：有明高専グラウンド
小雨決行（雨天順延）
車でのご来場はご遠慮ください。

第25回 体育祭

10月14日

M
E
I
C
A



総合優勝 M科・敢闘賞 A科・応援賞 M科・バックボード賞 M科・マスコット賞 I科



第44回(平成19年度)

7月20日(金)~22日(日)

九州沖縄地区高等専門学校体育大会成績

〈都城高専担当〉

◎陸上競技

男子砲丸投	【全】3位	横山功志(2-5)
男子円盤投	【全】優勝	荒木貴光(4I)
男子やり投	【全】2位	松田貴史(4E)
女子100M	【全】優勝	栗山明子(5C)
女子800M	【全】2位	小宮沙織(1A)

◎ソフトテニス

男子団体戦	予選リーグ敗退
-------	---------

◎バドミントン

男子団体戦	【全】準優勝
女子団体戦	【全】準優勝
男子ダブルス	【全】準優勝 3位
女子シングルス	【全】準優勝 3位
女子ダブルス	【全】準優勝 3位

◎水泳

団体	準優勝
男子400Mメドレー	3位
男子400Mフリーリレー	3位
男子800M自由形	【全】優勝
男子400M自由形	【全】2位
男子200Mバタフライ	【全】2位
男子100M背泳ぎ	【全】2位
男子200M個人メドレー	【全】3位
女子100M自由形	【全】優勝
女子50Mバタフライ	【全】優勝 3位

◎ハンドボール

	3位
--	----



〈鹿児島高専担当〉

◎硬式野球

男子	3位
女子	準優勝

◎バスケットボール

男子	予選リーグ敗退
女子	準優勝



◎卓球

男子団体戦	【全】優勝
女子団体戦	準優勝
男子ダブルス	【全】優勝 3位
男子シングルス	【全】優勝 3位
女子ダブルス	【全】準優勝 3位
女子シングルス	【全】優勝 3位



◎剣道

男子団体戦	予選リーグ敗退
男子個人戦	【全】準優勝 3位
女子個人戦	福山翔平(2-2) 中小路空(5I)



〈八代高専担当〉

◎サッカー

【全】	準優勝
-----	-----



◎柔道

男子団体戦	予選リーグ敗退
男子個人戦90kg以下級	【全】優勝 堺田玉輝(2-5)



◎バレーボール

男子	3位
女子	予選リーグ敗退



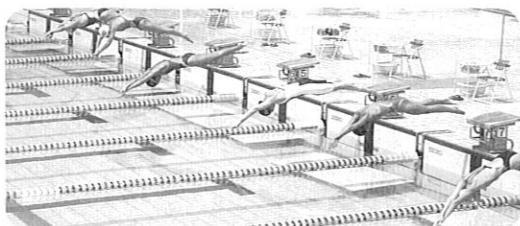
◎テニス(7月13日(金)・14日(土))

男子団体戦	3位
女子団体戦	3位
男子ダブルス	3位

兼濱隆宏(5E)・釜我勇志(5A)

第42回（平成19年度） 全国高等専門学校体育大会成績

8月18日(土)～26日(日)



〈阿南高専〉

◎陸上競技

男子砲丸投	19位	横山功志(2-5)
男子円盤投	13位	荒木貴光(4-I)
男子やり投	3位	柊田貴史(4-E)
女子100M	3位	栗山明子(5-C)
女子800M	4位	小宮沙織(1-A)



〈新居浜高専〉

◎バドミントン

男子団体戦	3位	
女子団体戦	ベスト8	
男子ダブルス	準優勝	
女子ダブルス	ベスト8	池上貴英(3-E)・田上拓弥(3-E) 平山みなみ(2-3)・清水邑佳(1-I)



〈詫間電波高専〉

◎水泳

男子400M自由形	予選19位	蒲池悠斗(2-4)
男子800M自由形	17位	蒲池悠斗(2-4)
男子100M背泳ぎ	3位	金子貴哉(1-M)
男子200M個人メドレー	7位	金子貴哉(1-M)
男子200Mバタフライ	予選13位	山口大志(4-I)
女子100M自由形	4位	西田絵美(1-C)
女子50Mバタフライ	優勝	西田絵美(1-C)
総合成績	11位	



〈詫間電波高専〉

◎卓球

団体戦	3位	
男子ダブルス	予選ブロック3位	渡辺大也(3-I)・坂井寿光(2-4)
男子シングルス	予選ブロック2位	坂井寿光(2-4)
女子ダブルス	予選ブロック4位	渡辺大也(3-I)
女子シングルス	予選ブロック3位	藤城香織(5-I)・越智芙美香(4-I)
	3位	越智芙美香(4-I)
	予選ブロック4位	藤城香織(5-I)



〈弓削商船高専〉

◎柔道

男子90kg級	3位	堺田玉輝(2-5)
---------	----	-----------

〈弓削商船高専〉

◎剣道

男子個人の部	ベスト16	福山翔平(2-2)
--------	-------	-----------

〈高知高専〉

◎サッカー

	1回戦敗退	
--	-------	--



第37回 西日本地区高等専門学校弓道大会

7月21日(土)・22日(日)

〈鹿児島高専担当〉

男子団体戦	予選ブロック敗退	
女子団体戦	3位	

学校特別表彰

全国高等専門学校体育大会優勝者

水泳部 1C 西田 絵美

初めての全国高専大会は、初めての香川上陸！！ということもあってワクワクでいっぱいでした。タッチした瞬間「負けたなあ…」と思ったけど、電光掲示板を見ると、自分のコースが1番上に表示してあったから、「よっしゃっ♡」と心の中でガッツポーズでした。しかし、大会新は出せず、納得できるタイムではなかったので、来年は自分のベストを出して、大会記録を塗りかえたいです。大会に出場した部員のみなさんや顧問の先生、車で来てくれたお父さんの声援があっての記録だと思い、感謝しています。

来年は、大人数で行きたいです♡



英語弁論大会

7月26日

3C 佐藤 美紀

今年は有明高専で第40回九州沖縄地区国立高専英語弁論大会が行われました。私は初めてスピーチの部に出場させていただき、優勝することができました。先生方には原稿の書き始めから当日まで本当に色々とお世話になりました。

大会前日には交流会があり、短時間で他の高専の人たちとの距離が縮まったように感じられました。当日はそんな皆のスピーチが一つ一つ伝わってきて、緊張も忘れそうなほど楽しむことができました。練習のときは慣れない発音やジェスチャーなどに戸惑いもありましたが、本番はスピーチそのものに集中することができたと思います。指導や準備・企画をしてくださった先生方や高専の皆さんのおかげで、優勝という結果だけでなく、自分にとっ

て貴重な体験を残すことができました。これからは一月の全国大会に向けて頑張りたいと思います。



佐藤さんと審査員の先生方

ホンダエコラン

7月29日

5M 山口 信悟

私達、自動車工学研究部は毎年8月に行われているHONDAエコノパワー自動車燃費競技会（エコラン）に出席しています。エコランでは「1ℓのガソリンで、できる限り長い距離を走る自動車を開発し、その距離を競う大会です。」今年は、フレームをアルミで作る予定でしたが時間の都合で間に合わず、去年のフレームで出場することになりました。しかし、その分エンジンの調整に時間を使うことができたのでエンジンはベストコンディションで出場できました。大会記録は160km/ℓとあまり良くなかったのですが、これからフレームやエンジンなどの改良点がいろいろあるので来年にむけての良いデータが収集できたと思います。

これを読んで少しでも興味をもってくれた方は、是非、自動車工学研究部に入って一緒にマシンを

作りましょう。学年学科は問いません。車・バイクなどが好きな気持があればどなたでも大歓迎です。



スタート直前の様子

ソーラーボート

8月4日・5日

5M 高田 康平

私たちソーラーボート愛好会は本年度も柳川ソーラーボート大会に参加しました。今年も昨年同様、新型艇を製作しました。改良点は船体の軽量化、船幅の拡大、モータ取付方式の変更、ラダー配置の変更、コントローラの自作等、前回の教訓を活かし大幅に改良を加えました。

大会の結果は周回レースは予選敗退、スラロームコンテストは11位（学生部門30チーム中）と、一昨年には及びませんでしたが、船の自作を始めて以後、確実に成績を向上させています。今後、これまでの活動に加え、新たな分野にも活動を広げ、

活性化を図っていきたいと思います。



競技中のボート

キャンパスクリーン作業

10月2日

10月2日(火)、本年度第2回目のキャンパスクリーン作業が行われました(1回目は6月12日(火)に実施)。7限目の授業が終了した後、10月14日(日)に行われる体育祭にむけてのキャンパス美化のため、除草作業などを全学生・全教職員で行いました。



体育系部活動リーダー研修

10月23日

10月23日(火)の放課後、平成19年度体育系部活動リーダー研修会が、多目的室で行われました。

この研修は、体育系の部活動リーダーを対象に、リーダーの自覚と部活動の活性化を図ることを目的に毎年行われているものです。今年度も、16の部の新リーダー・顧問教員など約60名が出席して行われました。

はじめに全体会で、卓球部顧問の大山司朗先生より、部活動を通じて礼儀・忍耐力・協調性などを育むために、リーダーとして部員にどのように接すべきかについて、講演をしていただきました。つづいて、バスケットボール部顧問の仁田原元先生より、求められるリーダーになるには、環境の変化に対応する、ナンバーワンよりオンリーワンを目指す、複眼思考を持つなどの講演をしていただきました。数々の実績と、長年にわたり有明高専の部活動を牽引して来られた両先生も来春、定年を迎えられます。貴重な講演をいただき、学生・教職員から惜しみない拍手が送られていました。つぎに、女子50mバタフライで全国大会優勝を果



講演中の大山先生



講演中の仁田原先生

たした西田絵美さん(1C、水泳部)によるスピーチが行なわれました。研修はこのあと、3つのグループに分かれて「リーダーの仕事と役割」というテーマで分科会を行い、その討議内容が再び全体会で報告されました。各部とも、「今よりもっとよい部への向上を目指す意気込み」を感じられる内容が報告されました。新リーダーは、この討議で得たものを、これから部活動運営に活かして欲しいと思います。(学生主事 永守知見)



訃報

去る、10月11日(木)本校電子情報工学科4年生の下田一景君が、急逝されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

インターンシップ報告（本科）

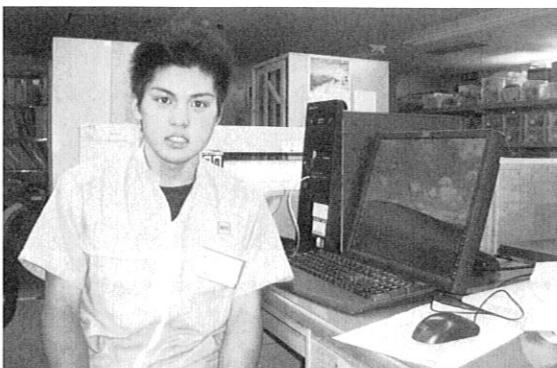
（株）三井ハイテック工作機事業部での実習 ————— 4I 興紹 弘之 —————

私はこの夏季実習で、北九州市の（株）三井ハイテックに、8月17日から24日までの1週間お世話になりました。ここは主に金属を打抜くための“金型”の製造において、国内トップシェアを誇る企業で、金型事業で戦後創立から60年足らずで、あつという間に巨大企業へと成長していった企業です。

そんな凄いこの企業で私が実習を行った所は、主にこの会社を支える金型を製造するための機械の設計・開発を行う工作機事業部でした。実習内容は、2次元・3次元CADソフトを使用し図面の設計を学ぶことで、主に工作機の部品等の図面をCADソフトを使用して設計しました。普段からCAD自体あまり使用しない上、図面の読み方も全く分からず、実習は、大変苦戦しました。しかしこの企業の基本である“ものづくり”的大切さを学ぶ上では、とて

も良い経験となりました。

短い期間でしたがこの実習での経験を通して、来年の就職活動に役立てたいと思いました。



作業中の興紹君

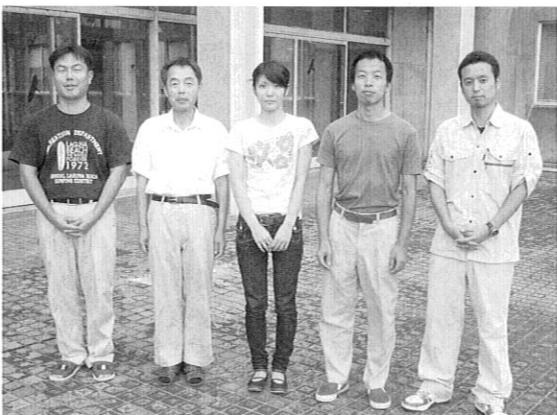
夏季実習に参加して —————

4C 小田 奈津姫

太宰府市にある、福岡県保健環境研究所で1週間の夏季実習を行いました。私がお世話になった廃棄物課は、廃棄物処理場からの浸透水などを分析して、有害な物質が含まれていないか調べたりして、私達の健康な生活のためにとても重要な仕事をしている所でした。

与えられた実習テーマは、サンプル中の鉛濃度と同位体比を求めるというものでした。ICP-MSという機器を用いて測定し、データ整理を行って結果を出すという作業を行いました。実験操作や、データ整理の方法など知らないことが沢山ありましたが、丁寧に指導して戴き、とても勉強になりました。

今回の実習で、仕事というものを身近に感じることができました。とても貴重で有意義な経験になったと思います。



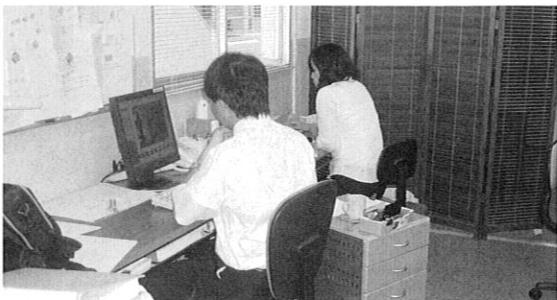
小田さん(中央)とスタッフ

インターンシップを通して —————

4A 宮下 いづみ

夏期休業中の2週間、私はJE構造設計でインターンシップを行いました。研修期間は主にレポート作成を行いましたが、その中で一日だけ耐震診断で現場にも同行させていただきました。今回の研修において所長さんがおっしゃった「本当に安全な建物を作ろうと思うならば、地盤は建物が建つ位置一つ一つで異なるものであり、同じ基準法で建物を作ることはできない。それでも、私たちは平均をとり安全であると判断された基準の中で建物を建てている。しかし、私たちが完全だとは思わないでほしい。私たちだってまだ構造の中のほんの途中にいるに過ぎないのだから。それを覚えていてほしい。」という言葉が私の心に深く残っています。地震大国日本が今日美しく安全な建築物を造ることができるものは過去の辛い経験によるものであり、それを教訓として現在の建築基準法に反映してきた人たちが居てこそその結果だといえます。人々が願う建築物と命の安全を守るために構造は日々改善されてきているのは紛

れもない事実です。そして、その現場に関わっていくことこそが私の目標であり、夢もあります。生命の誕生と共にはじめた建築の歴史の一部に私も触れるができるように一意専心の決意で頑張っていきたいと今回のインターンシップで改めて思いました。



レポート作成中の宮下さん(奥)

インターンシップ報告 (専攻科)

アマダで学んだこと — 生産情報システム工学専攻 1年 山崎 雅也

自分は、神奈川県にある株式会社アマダという会社で、特別実習を行ってきました。この、アマダという会社は、金属の板を切ったり、穴をあけたり、曲げたりする板金加工を行う機械を製作している会社です。

自分はM科出身なので、金属を削る切削加工等は、授業で習ったり、実習で経験していますが、板金に関して学ぶのは、たぶん初めてでした。金属板を曲げたりするというのは、一見簡単そうに思えましたが、とても奥が深く、もの作りに関して重要な加工法であることを知ることができ、技術者としての視野を広げることができたと思います。

また、一緒に実習を行った大学生達や、多くの職場の人達と交流することができ、いろいろなことに関して意見を交換したり、アドバイスをもらったりして、たった2週間でしたが、人間として少しは成長したと思います。この実習での経験を活かし、これからも大きく成長していきたいと思います。

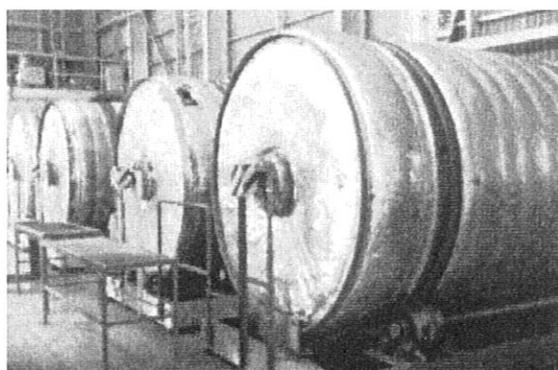


投影機での寸法測定をする山崎君

夏季実習に参加して — 応用物質工学専攻 1年 上津原 光

私は、大牟田市にある、株式会社テノックス九州で実習生として10日間実習を行いました。テノックス九州は、主に建設業を行っている会社で、私の専門分野外の勉強をする機会がたくさんありました。今回私が主に実習した、テノックス九州の微生物部門では、最初の生産工程から見学、体験し、仕事の大変さをとても感じました。学校の研究とはまったく違って、研究してデータを出すのではなく、実際に製品を作り、成果を挙げてから、検討するといった印象を受けました。製品作成の際には、思考錯誤してある点がいろいろあり、実験とは違って、実際に働く際にはいろんな問題点が出てくるということを理解できるようになりました。また、会社で実習を行ってみて、仕事をするにあたっては、仕事場の雰囲気や人間関係などはとても重要で、楽しく仕事を

して成果を出すことの重要性がよく分かりました。夏季実習での体験はこれから私が社会に出るにあつたって、大切な経験になると思います。



実習先企業で開発された回転式攪拌機

「NKSアーキテクツ」で学んだもの — 建築学専攻 1年 宮崎 進

私は、今回の夏季実習で、今の自分の実力がどのようなものかを試してみたいと思い、学生を対象としたJIA（日本建築家協会）のオープンデスク制度を使い、福岡市にある「NKSアーキテクツ」という建築事務所に実習に行きました。

NKSアーキテクツは、住宅設計から都市計画まで手がける事務所で、私はプロジェクトの一つである「熊本市下通りアーケードコンペ」の補助作業を行いました。実際に作業をする中で、図面の表現方法や建築事務所の業務内容など、様々なことを学ぶことができました。そして、わずか2週間だったのですが、図面作成や模型製作さらには作品発表会まで、設計業務に関する一連のプロセスに携わることができ、貴重な経験をすることができました。また、大学生とも一緒に実習する機会もあったのですが、そこで大学生に劣らず仕事ができたことが、私にと

ってとても自信になりました。今回の実習で多くことを学び経験し、大きな自信を得ることができたことを、今後のあらゆる場面に活かしていきたいです。



模型製作中の宮崎君

トピックス

第29回 全国高等専門学校通信 弓道大会女子個人の部 優勝

3Cの佐藤美紀さんは標記の大会で全国優勝を果たしました。記録は12射中9中でした。当大会には本年は全国の25高専が参加しました。なお、本校は当大会に第1回目の昭和54年から参加していますが、今回が初めての部員の優勝となりました。

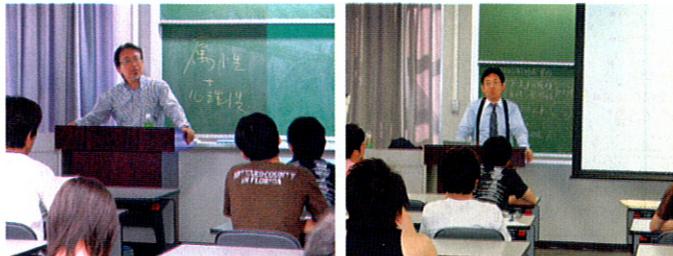


シンガポールのテーマセク・ポリテクでの 国際工学教育研究集会に参加

9月19日から21日にシンガポールのテーマセク・ポリテクで国際工学教育研究集会が行われ、本校から松野哲也先生（I科）、岩下勉先生（A科）、小野聰子先生（A科）、グランバイン先生（G科）、川瀬良一先生（C科）が参加されました。

現代GP関連科目 「地域協働特論」の集中講義開講

現代GP関連科目である地域協働特論が夏季休業中の9月20日・21日に行われました。地元自治体や企業で活躍できるような地域の課題解決を担う人材や、地域や国際社会で自考・自立できる人材を育てることを目標とし、起業やブランド戦略について講義は行われました。なお、非常勤講師の先生は、信田和宏事業創造大学院大学教授と飯盛義徳慶應義塾大学専任講師です。



入試説明会・校内見学会

9月29日（土）、中学3年生・保護者の方・中学校の先生方を対象に、平成20年度入学試験説明会および校内見学会が行われ、360名の方々が参加されました。

例年使用していました本校視聴覚室は改修中のため、今年は第一体育館で行われました。

尾崎校長のあいさつ、氷室教務主事による有明高専の概要説明、岩本教務主事補による平成20年度入学試験の説明が行われた後、各学科代表の教員が5分程度ずつ学科の説明を行いました。

その後、学科代表の教員や5年生の引率で、各学科の展示や実験実習のデモンストレーション等を見学していただきました。修己館では教務・学生・寮に関する相談コーナーを設置しました。



編集後記

体育祭の終わりと共に一気に秋の色が深まってまいりました。新学期の始まりの月である10月はあっという間に過ぎ去って、すぐそこには冬の足音が聞こえています。読書やスポーツにはうってつけの季節となりましたが、同時に体調を崩しやすい時期もあります。皆さん栄養・睡眠をしっかりとって元気に高専生活を楽しんでください。高専での5年間は一般高校と比べると長いように見えますが、充実したキャンパスライフは秋風のように過ぎていきます。特に最高学年の学生諸君には最後の学生生活となるかもしれない残り半年を有意義に過ごしてもらいたいものです。

有明高専だより 第123号

平成19年11月20日

編集・有明高専広報室

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861(学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

